

屋久島観光協会30年ビジョン策定文章

ビジョン策定の目的

- ・観光協会やこれからの屋久島の観光に「本当に必要な変化」を起こすための屋久島観光協会が作る屋久島の観光ビジョンを策定する。
- ・観光事業者から見た現場のビジョンを描くことによってより実現可能な目標としてのビジョンを描き、そのビジョンをもって政策提言や連携等を行うことで、官民一体となった屋久島観光の発展を目指す（ビジョンは絵空事ではなく、しっかりとした目標としての実現する未来として描く）
- ・世界の社会情勢や屋久島の変化が見込まれる未来（滑走路延伸等の変革期、少子高齢化など）に対し、屋久島の観光作法をもう一度見直すことで、観光協会の立ち位置、屋久島観光のあり方を示し、外資や新規事業者の無秩序な参入に対して一定のルール付けや指導、勧告などを行える団体となる資質を高める。

屋久島の観光とは

1、消費する自然から共に生きる自然へ

屋久島は、江戸時代から昭和にかけて森林伐採が進みましたが、1993年の世界自然遺産登録を機に、観光のあり方が「消費する自然」から「共に生きる自然」へと転換。エコツーリズムが発展し、少人数制ツアーや環境保護活動が推進されています。持続可能な観光の実現には、自然と調和しながら楽しみ学ぶ意識が不可欠です。屋久島の豊かな生態系を未来へ引き継ぐため、地域と訪問者が共に守り、支える観光が求められています。

2、覚悟の先にある、持続可能な島の今と未来

屋久島は、過去に森林伐採の経緯を省みて、改めて人間社会本来の「共に生きる自然」に立ち返り、持続可能な観光の実現へと進んでいます。この島の未来は、訪れる人々の意識にもかかっています。自然と向き合い、守りながら楽しむことこそ、屋久島の持続可能な未来を築く鍵となります。

3、自然の一部としての自覚と責任ある観光

屋久島は、太古から人々が自然と共に生きてきた島です。先人たちは、限りある資源を大切にし、森を敬う独自の自然観を受け継いできました。しかし、観光の増加とともに環境への負担も課題となっています。持続可能な未来のためには、私たち観光事業者も「自分も自然の一部である」という自覚を持ち、責任ある観光を実践するために、エコツーリズムを通じて、屋久島本来の自然観に触れながら、森や水の恵みを未来へつないでいくことが求められています。

屋久島観光協会30年ビジョンとは

私たちがつくる屋久島観光協会 30年ビジョンは

【太古から受け継がれてきた自然と人との関わり合いから学んだ屋久島観光】の未来です。

そしてこのビジョンは、私たち【屋久島観光協会】が今後、

【地球と人類の宝物である屋久島の観光に関わるすべての人】と活動を展開していくためのものです。

活動を広げていくために、【全島民と事業者、行政そして来島者】とビジョンを共有し、改訂していきます。

屋久島観光協会 30年ビジョン

「Living as Nature — 自然と人間が一つになる場所。屋久島 —」

屋久島は、持続可能な観光の責任を担いながら、人間の本質に立ち返る場所であり続けます。自然と共生する生き方を広げ、屋久島の自然観を世界へ発信し、「人間も自然の一部である」という感覚を育む社会を目指します。

変わらぬ自然環境と暮らしを守りながら、地域が主役となる未来へつながる島づくりを推進し、世界とつながる屋久島を築いていきます。そのために、覚悟を持って持続可能な島の未来を創造します。

ミッション

- 1、いつでもどこでもおいしい水が飲める屋久島
- 2、屋久島憲章の理念を次世代へつなぐ観光
- 3、屋久島の自然観を世界に伝える観光
- 4、原点に立ち返る観光
- 5、屋久島の文化・伝統・自然に根ざした優しい観光

ビジョンを実現するための屋久島観光協会アクション

1、事務局機能の強化と会員拡大

若者が憧れ働きたくなる観光協会、観光協会会員の拡大

2、観光インフラ整備（情報・ステークホルダー連携）

情報発信の強化、観光情報の収集、観光統計の調査・集積、観光産業間の連携・経済の活性化

3、屋久島観光のブランディングと情報発信

環境保全活動、屋久島観光ルールの普及啓発・良質な観光体験の提供

4、政策提言

観光保全活動、エコツーリズムを推進する為の観光人材の育成

5、次世代を見据えた観光人材教育

行政事業との連携、観光目標値を策定、観光地経営

6、会員との協働、他団体・地域との連携